

都市計新聞

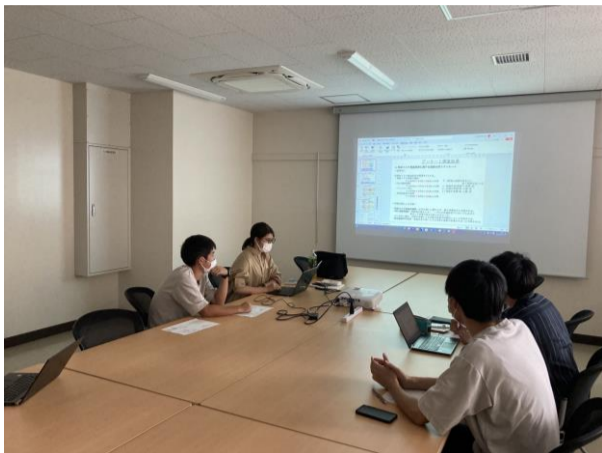
発行者：

今井、高田
勝村、木村
谷川、松木

中間発表に向けて スライド作成の極意

都市計画研究室で毎年九月末に研究の中間発表が行われる。今年も九月二十日に行われる予定であり、各研究室で中間発表に向けて準備を行っている。中間発表では25分が六分間、30分が十分間の発表時間であり、それぞれの発表時間に合わせてわかりやすいスライド作成に励んでいる。そんな中、吉井研では、学生間で発表練習を行って、発表練習では自分の発表時間の確認と共に先輩方からスライド作成の極意を学ぶことができた。発表スライドでは一・二スライド目と

なる研究背景が一番重要であること、スライドごとに何を示したいのかを明確にする。またスライド作成の基本となるフォントサイズ・見やすいフォントの色などについて学ぶことができた。今年も去年と違い、四月から先生方とWEBではなく対面で研究打合せを行っている。したがって、より議論を深め研究を進めることができている。さて、各々がどのような研究を行い、最終的にどのような結果を残すことができるのか、見ものである。



吉井研発表練習の様子

仕送りありがとうございます ぐんぐん

夏休みに入り、都市計画研究室宛てに多くの方から贈り物が届いています。例年卒業した先輩方が後輩宛てに送ってくれたものですが、今年は送られてくる量が特に多いようで、研究室の私たちがとても嬉しい限りです。

卒業生の方からはお菓子やインスタント食品が何箱も届きます。研究室に山積みです。アイマスクやエナジードリンクなど、「研究がんばれ！」のメッセージが聞こえてくる品々も頂きました。今研究室の冷蔵庫を開けると、各種エナジードリンクが自動販売機さながらの品揃えです。中間発表を控えたこの時期です。

が、しばらくは研究室生活に困りませぬ。また、地域の特産品も送って頂き、出張中の吉井先生からは北海道のとうもろこしを頂きました。この場をお借りして、送ってくださった皆さまにお礼の言葉を伝えられたらと思います。

もうすぐ九月も終わりを迎え、十月から始まる後期には先輩たちが授業で研究室にやってきました。これからは、期待に恥じぬよう活気のある都市計画研究室を目指していきます。



ほんの一部ですが、積み上げるとこんなにありました。

社会の断面

猛烈な台風 日本直撃

シルバークロウイークで3連休を迎えていた日本に、大型で猛烈な台風14号が直撃した。上陸前から史上最強クラスとの報道も多く、さきほどは速度が遅いことも特徴で、影響も長時間に及んだ。台風の北上は、観測史上賀県では、観測史上1位となる最大瞬間風速を観測した。また福岡県添田町では、19日朝までの24時間で、観測史上1位の39.8ミリ

を観測し、雨・風ともに大きな影響をもたらした。これにより、瀬戸大橋や明石海峡大橋などが通行止めになるほか、新幹線などの鉄道や空の便などで遅延や欠航が相次いだ。また、多くの観光客が見込まれていた3連休であったが、台風によりキャンセルが相次ぎ、観光業にも大きな影響をもたらした。

都市計 OB 情報

広島大学大学院・長坂さん



今回は2020年卒業の長坂さんにインタビューしました。

・名前 長坂奈月

・勤務先 広島大学大学院先進理工系科学研究科

交通工学研究室修士2年

(2023年4月)

オリエンタルコンサル

で働きます)

・仕事内容

現在は藤原先生の下で災害時避難行動の研究をしています。就職後はOBなどの途上国開発援助に関する仕事をしています。

・研究室での思い出

サーバルームと一緒に居た同期たちとの会話が印象に残っています。

・学生へメッセージ

卒業論、修論ある方と一緒に頑張りましょう！

・先生方へメッセージ

先生方、いかがお過ごしでしょうか。私の頃は大変お世話になりました。また今後学会等でお見かけした際は挨拶に伺います。よろしくお願

いします。

吉井研研究紹介

事故リスク情報を活用した交通安全マネジメント

B4 勝村涼

私は「事故リスク情報を活用した交通安全マネジメント」と題して、交通安全の向上を図るべく、事故リスクの効果的な活用方法について研究しています。道路管制センターの交路管制官と一般のドライバーを対象としたアンケート調査を行い、理解しやすい事故リスク情報の提供方法やどのような交通状況でどのような交通管制制御が適切なのか、AIモデルが算出する事故リスク予測と交通管制官とドライバーの事故リスクに対する認識を比較し、交通管制官の事故リスク評価能力の整合性を確認し交通管制業務への事リスク指標の有効性を把握しようとしています。アンケート調査によって得られた知見は、理解しやすい情報提供方法で実際の高速道路の



(アンケート調査票の一部)



(石鎚山SAでのアンケート調査票配布の様子)

プローブデータを活用した信号制御

M1 高田啓介

私はオンラインプローブデータを活用した交差点の信号制御についての研究を行っています。対象交差点は松山市内の朝生田西交差点です。この交差点は松山環状線という愛媛県内でもトップクラスの交通量を誇る路線に位置しています。また、交差点の西側において、写真のように右折車が右折専用レーンに滞留し直進車の走行を妨げることが発生しています。この渋滞を緩和させるため、

① 現示のスプリット調整
 ② 同一現示内で飽和しているアプローチと飽和していないアプローチが共存する場合に非飽和アプローチの青信号を非飽和の範囲で早切りする

の二つの処理を行う「非飽和交通流感応制御」を提案し、現在はその制御効果について試算を行っています。今後はオンラインプローブデータを用いて実際の制御アルゴリズムの考案を行っています。



乱横断対策における効果的なライトアップ方法の検討

B4 松木陽汰

私は、現在国土交通省などで検討されている乱横断対策のライトアップについて研究を進めています。その検討されているライトアップ方法の中には、国土交通省などでは、実際に来年度に実道路での調査が検討されているので、その効果があるかについて現在、ライトアップ

カーボンニュートラル

B4 谷川智哉

港湾・海事分野におけるカーボンニュートラルについての研究を行っています。島国日本において、港湾は輸出入貨物の95%が經由する国際サプライチェーンの拠点となっており、また、CO2排出量の約六割を占める。

消費拠点であり、削減の余地も大きい地域であるため、港湾地域において脱炭素化に向けた先導的な取組を集中的に行うことはカーボンニュートラルの実現に効果的である。

q・k関係の理論構築

B4 木村勇翔

一般道路の交通流における交通量、交通密度、速度の関係に注目した研究を行っています。直線区間の長い高速道路と異なる、一般道路では多くの道路が交差する点で交わり、交通流へ相互に影響を与えます。この複雑な

交通流を分析するため、まず1本の道路に注目したq・k関係に注目し、そこから対象を交わって複数の道路に拡大した際にq・k関係がどのように示されるのか、理論を構築することを目的としています。

夏休み

夏休みの思い出を匿名で記す。

私の夏休みの思い出は、お盆に幼馴染4人と行った九州旅行ではなく、旅行後の節約生活である。九州旅行をこの上なく楽しみ、散財したため、旅行後は、節約生活を余儀なくされた。生活をする上で欠かせないのは、食費である。この食費をできるだけ削減するためにほぼ毎日、焼肉屋のバイトに入った。バイトに入ると賄いを食べる事ができるからである。正直、これほどまでに賄いの存在に感謝したためしはない。また、余った賄い(おでん)を持って帰らせてもらい、それを昼ごはん(おでん)に充てることで昼ごはん代も削減することができた。ただ、一週間毎日おでんを食べたため、人生で初めておでんに飽きるという事態も起こってしまった。節約生活のため友達からの遊びの誘いも断っていたが、しびれを切らして徐々にラーメンを食べに行っていた。この時、これまでにないほどラーメンの味をかみしめることができた。

旅行後の節約生活により、日々の当たり前のありがたみを感じる事ができ、貴重な体験をすることができた。